

スタンドパイプ取り扱い説明書

スタンドパイプとは、

消火栓に差し込みホースと管鎗（筒先）を結合することで、毎分100以上の放水ができる消火用資器材です。

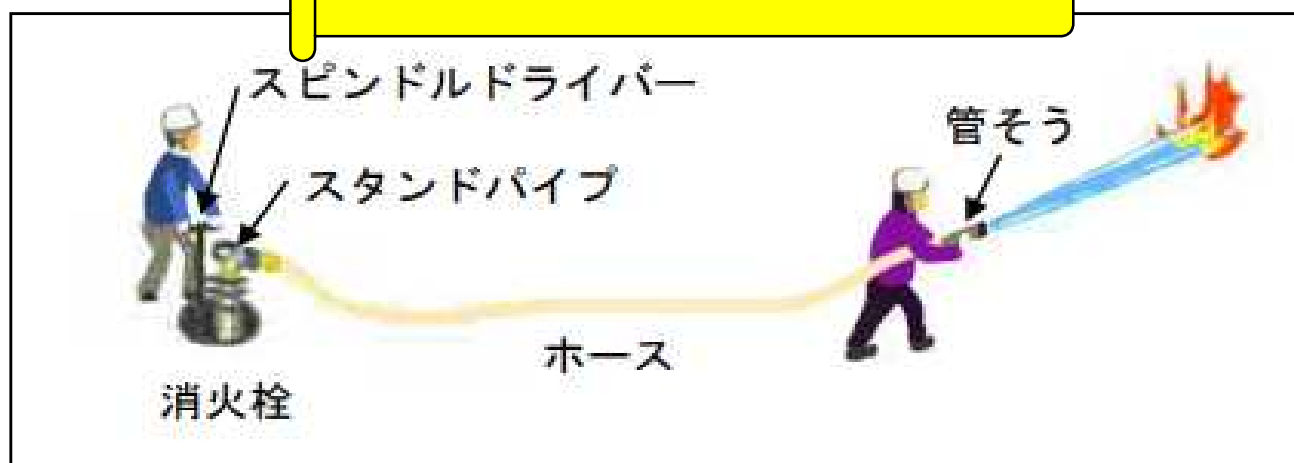
消火用資器材としては軽量で操作も簡単で、消防車両が進入できない狭い路地の地域や木造住宅密集地域では、火元直近の消火栓・排水栓を活用した有効な消火活動ができます。

スタンドパイプ本体のほか、スピンドルドライバー、媒介金具、ホースおよび管鎗（筒先）で構成されています。

訓練で道路上にある消火栓を使用する場合は、所轄の消防署・警察署にあらかじめ相談してください。

（消防署：消火栓の使用・訓練指導について、警察署：道路使用許可申請について）

設定時の全体像



スタンドパイプ各部の形状等の例

スタンドパイプ

単口引上げ式 アルミニウム製
口径 65mm 長さ 約800mm
アルミニウム製



媒介金具

差込式異径媒介 アルミニウム製
差込メス65mm×差込オス40mm



スピンドルドライバー

長さ 約900mm 鉄製
消火栓内部の放水弁を開閉する道具。



消火栓鍵

十字型消火栓鍵 鉄製
消火栓蓋を開閉する道具。



管鎗（筒先）

口径40mm アルミニウム製
噴霧ノズル付き。



消防用ホース

口径40mm 長さ20m



スタンドパイプ操作手順

1 消火栓鍵を使用して消火栓蓋を開放します。

角型消火栓の場合

消火栓鍵を差し込みます。差し込んだら90度回し、長い側をしっかり持って、てこの原理により持ち上げます。

蓋を開放する際は、周囲の安全を確認し、膝を曲げて腰を低くして、怪我をしないよう注意します。



完全に蓋を開放します。

蓋が手前に倒れて足を挟み込まないように、足の位置には十分注意しましょう。

蓋を開放してすぐに、放水弁にスピンドルドライバーを差し込むか、吐水口にスタンドパイプ本体を差し込めば、蓋が倒れてきても怪我を防ぐことができます。



丸型消火栓の場合

消火栓鍵を差し込みます。

てこの原理で蓋を持ち上げます。周囲の安全を確認し、腰を痛めないように注意します。

丸型の蓋を開ける時は、一度手前に引き上げてから、180度回して開放します。



2 吐水口にスタンドパイプ本体を結合し、水が出るか確認します。

吐水口にスタンドパイプ本体を結合します。

操作時、消火栓内に物を落下させないように気をつけましょう。

夜間は懐中電灯などがあると便利です。



結合したら、一度上方へ引っ張り、確実に接続しているか確認します。

結合が不十分だと放水中にスタンドパイプ本体が外れる可能性があり、大変危険です。



スピンドルドライバーを差し込みます。

スタンドパイプ本体とスピンドルドライバーはどちらが先でも構いませんが、足の挟み込み防止のため、蓋を開けたらすぐに差し込んでください。



スピンドルドライバーを反時計回り（左回り）に少し回して水が出るか確認します。スタンドパイプから水が出るのを確認したら、スピンドルドライバーを時計回り（右回り）に回して水を止めます。

なお、放水弁を開く時は周囲の安全をよく確認しましょう。急激な操作は大変危険です。



3 ホースを延長し、結合します。

一本目のホースを延長します。

ホースを必要以上に引っ張ると消火栓に差し込んだスタンドパイプが外れる危険があります。ホースを引きすぎないように十分注意しましょう。



スタンドパイプ本体にホースを結合します。

結合部分は差込式です。

差込式は、「カチッ」と音がするまでしっかりと差し込みます。結合後は、一度引っ張って確実に結合できていることを確認します。



4 管鎗（筒先）を結合し、ホースを伸ばします。

二本目のホースを延長します。
延長を開始する位置は、一本目が伸びきった位置からだと素早く結合できます。

ホースが折れ曲がっていると十分な圧力で放水できません。できるだけ、まっすぐ延長します。



ホースとホースを結合します。
二人で結合しても一人で結合しても構いません。
結合後は、しっかり結合されているか確認しましょう。

結合部分は、差込式です。



ホースに管鎗（筒先）を結合します。
結合後は、しっかり結合されているか確認しましょう。
結合部分は、差込式です。



ホース延長中は、ホースが引っ張られることにより、スタンドパイプや吐水口が破損しないように、ホースをしっかりと抑えましょう。



放水開始は、「放水はじめ！！」の発声と真っ直ぐ上方に伸ばした腕で確実に伝えます。
放水時の反動力は強いため合図を送ったらしっかり体制を整えて待ちましょう。



相手が見えない場合は、誰かに伝えてもらいます。
やむを得ない場合を除いて、放水担当は、管鎗から離れないようにしましょう。



合図を確実に確認できたら、放水操作を実施します。

一気に開放すると、放水担当者が反動力で怪我をする恐れがあるため、スピンドルドライバーはゆっくりと回しましょう。



5 放水を開始します。

管鎗（筒先）は目標に向け、腰の位置でしっかりと保持しましょう。

補助者がいる場合は、後方から支援してもらいましょう。また、補助者は、ホースの折れや絡まりがないか確認します。



水が来たら、管鎗（筒先）の先端を開放し、放水を開始します。前傾姿勢をとると水の反動力が抑えられ、姿勢が安定します。

放水の反動力があるため、しっかり姿勢を保ちましょう。



6 放水を停止します。

放水の必要がなくなった場合は、ゆっくりと放水を停止します。

吸水担当者へ合図を送ります。

「放水やめ！！」の発声と腕を横に伸ばした動作で確実に伝えます。

管鎗(筒先)の先端の閉鎖を急激に行うと資器材を損傷する原因になるため、ゆっくり操作しましょう。

相手がない場合は、誰かに伝えてもらいます。



スピンドルドライバーを時計回り(右回り)に閉めましょう。

吸水操作実施者は、消火栓から離れてはいけません。常にトラブルに対応できる態勢を整えましょう。

他の人が消火栓の中に落ちないようにロードコーンを置くなどして注意を促すことも必要です。



【スタンドパイプ本体の外し方】

訓練終了後は、水が確実に止まっていることと、ホース内に圧力がかかっていないことを確認した後、本体レバーを両手で握って、消火栓から取り外しましょう。

